

## 7 施設野菜におけるマメハモグリバエの物理的防除

### ねらいと成果

軟弱野菜には登録薬剤がほとんどないため、薬剤以外の方法による被害防止対策の確立が急務である。そこで、コマツナを対象に物理的防除対策として雨よけハウスの開口部のネット被覆による防除効果について検討し、0.8mmのネットによる侵入防止効果の高いことを明らかにした。

### 内 容

8月下旬、神戸市西区の軟弱野菜栽培地域において、雨除けハウス（間口5.4m、長さ47m）を使用し、①サイドおよび出入り口を目合い0.8mmのネットで覆う②サイドおよび出入り口を目合い1.0mmのネットで覆う③ネットで覆わないを設置した。耕耘畝立て後、①②ハウスでは土壌面をビニールで1週間覆い、土中の蛹の撲滅を図った。その後、コマツナを播種し、本葉展開後、1ハウス当たり150株について被害葉数を調査した。

その結果、1.0mmネット区における播種24日後の被害葉率は100%と無ネット区と同等であったのに比べ、0.8mmネット区での被害葉率は22%と無ネット区の約5分の1に抑制した。

### 今後の方針

被害は出入り口周辺に多い傾向があり、外部からの成虫の侵入がうかがわれる。そのため、出入り口では二重カーテンを張るなど確実な侵入防止対策を行う。 廣瀬 敏晴（中央農技・環境部）

表 マメハモグリバエによる被害葉率（%）

区 名	播 種 後 日 数			
	12日	16日	20日	24日
① 0.8mmネット区	3.1	2.0	14.3	22.0
② 1.0mmネット区	47.3	94.0	90.0	100.0
③ 無ネット区	31.3	98.0	100.0	100.0